

文化の価値を再認識 知事が平泉中で授業

達増拓也知事は2月6日、平泉中学校で全校生徒約230人を対象に平泉文化の価値を伝える「平泉授業」を行いました。平成23年の世界遺産登録再挑戦に向け、生徒と気持ちを共有しました。

県と県教委が本年度、県内の小中高校で実施している出前授業の一環。達増知事はスライドを使って世界遺産の意味、平泉の歴史や文化、奥州藤原氏四代などについて説明。「世界中で戦争が続く今こそ、平泉の平和理念を世界に知ってもらおう絶好のチャンス」と語り掛けました。



夢の持つ力伝える 小中学校で講演会

難病の子どもたちの夢をかなえるボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン」の事務局長を務める大野寿子さんの講演会が2月5日、町内の小中学校でそれぞれ開かれました。

大野さんは筋ジストロフィーや白血病に侵された子どもたちが夢をかなえたエピソードを紹介。夢を持つことの素晴らしさ、夢実現に向けた仲間づくりの大切さを伝えました。



火の用心の意識を引き継ぐ 長島少年消防クラブ退団式

長島小全校児童で組織する長島少年消防クラブの20年度退団式が2月19日、同校で行われました。

旧団長・眞籠大輝さん（6年）から新団長・浅利大輝さん（5年）への団旗の引き継ぎ、盛大な退団記念演奏などを通して、卒業を控えた6年生27人が、防火の誓い新たにクラブを築立ちました。



練習の成果披露 舞台部門発表会

町芸術文化協会（浅利和昭会長）の舞台部門発表会が2月8日、平泉小学校体育館で開かれました。

ステージでは、舞踊や民謡などに取り組んでいる14団体約100人が、日ごろの練習の成果を披露。踊り、民謡、朗詠、器楽など多数の演目が、華やかに繰り広げられました。



威勢良く豆まき 中尊寺で節分会

中尊寺で2月3日、大相撲東関部屋の人気力士・高見盛閔を招いて、恒例の「節分会」が行われました。

豆まきには高見盛閔のほか、祓に身を包んだ厄年の男女や年男・年女など約70人が参加。「天に花咲け、地に実なれ」の口上に続き「福は内、鬼は外」の勇ましい掛け声とともに豆がまかれると、会場に詰めかけた町民や観光客は競って招福の豆を拾い集めていました。また町内の幼稚園、保育所の子どもたちによる豆まきや抽選会も行われ、会場にはにぎやかな歓声が響き渡りました。



理解と関心を深める 平泉文化フォーラム

県教委などが主催する第9回平泉文化フォーラムが2月7日、平泉小学校体育館で開かれました。基調講演や平泉文化に関する研究発表、平泉遺跡群の発掘調査報告などが行われ、約200人の来場者は、平泉文化に対する理解と関心を深めました。

基調講演では、平泉遺跡群調査整備指導委員会委員を務める玉井哲雄国立歴史民俗博物館教授が「柳之御所遺跡の建物復元検討から見た平泉文化の特質」と題して講演。建築史の視点から都市平泉の復元とその意義などについて説明しました。



自分の素晴らしさ知ろう 父母と教師の集い講演会

町PTA連合会が主催する第48回町父母と教師の集いが2月7日、長島小学校体育館で約250人が参加して開かれました。PTA活動功績者の表彰が行われたほか、トータル・カウンセリング・スクール講師の金藤晃一さんが充実した学校、家庭生活につながる人間関係の形成術を説きました。

講演で金藤さんは、不登校や家庭内暴力、引きこもりを克服した自らの体験を交えながら「ありのままの自分の素晴らしさ」を認識することの大切さを訴えました。